

市民参加型施設運営の事例

アオーレ長岡

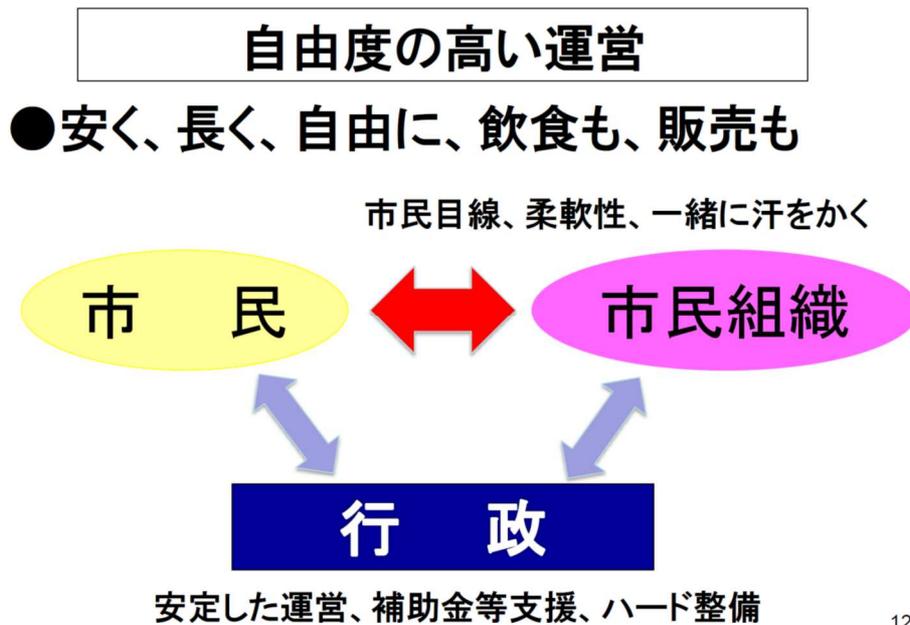
3度の合併で庁舎スペースの不足、市役所機能の分散が問題となっていた。H16 中越大震災で旧本庁舎耐震性不足が課題となり、中心市街地のにぎわい創出、交通弱者対策、市民力・地域力を生かしたまちづくりを念頭に整備を進めた。

施設は、長岡駅から3分、空中通路で直結しており、ナカドマ（屋根付き広場）を中心に、市役所、議場、アリーナ、市民交流ホール、シアターを配置した構成となっている。

特徴的なのは、その運営方法で、利用受け付けからイベント企画までNPO法人ながおか未来創造ネットワークが運営を担っている。NPO法人ながおか未来創造ネットワークは、H23年12月に発足（H26年6月法人化）、理事は、まちづくり関係者を中心に20名で構成している。指定管理者ではなく、官民協働で運営を行っている。市は安全対策、トラブル対応、使用許可等、施設ハード面は別途専門業者に管理委託を行っている。

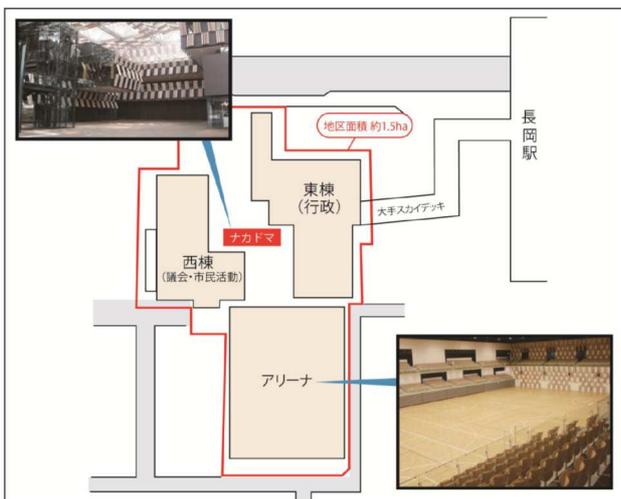
年間利用者数は130万人を超え、施設の稼働率も80%を超えている状態である。また、市民の持ち込み企画の増加やまちなか歩行者数の増加につながっている。

■運営段階における市民協働



12

■アオーレ長岡施設配置



■アオーレ長岡全景



岡崎げんき館

市立岡崎病院跡地に、健やかに集い、にぎわいを創出する核として、「岡崎げんき館」を整備。移転する岡崎市保健所を含む、健康づくりのための複合施設として、元気と健康づくりから街づくりまで広く貢献することのできる施設。開業後、現在でも当初計画を大きく上回る（約2倍／目標15万人→実績30万人）来館者数があり、今後体育施設の増築（公民連携手法を導入）を予定している。

運営面では、健康増進というテーマにそった、市民や地元学生（愛知学泉大学・短大：健康栄養学部、家政学部）等との連携によるプログラムの造成により、時代のニーズに合わせたプログラムを提供している。また、民間スポーツクラブを指定管理者としたきめ細やかな施設・設備の運営管理を行うとともに、モニタリング委員会により適切な維持管理・運営がなされているか定期チェックを行っている。

■導入機能

区分	主な機能
保健衛生ゾーン	保健所事務室、相談室、X線室、検診室、保健指導室
健康づくりゾーン	屋内プール（25m×6コース）、スタジオ（40名収容可能）、トレーニングジム、屋外健康広場（フットサル、テニス等）
子ども育成ゾーン	子育て支援室、プレイルーム、一時託児コーナー、屋外子ども広場
市民交流ゾーン	情報ライブラリー、調理実習室、市民活動室・和室

■岡崎げんき館

